

# V 第7回カツオ・マグロ漁業に 関する研究座談会

主 題 : ミナミマグロの問題

日 時 : 昭和42年11月8日午前10時30分~午後5時

場 所 : 三浦市三崎水産会館

コンビナー : 中 込 淳 (神奈川県水産試験場)

話題および話題提供者

タスマン海周辺のミナミマグロの釣獲率経年変化、年令組成経年変化およびタスマン海、ジャワ南方海域の表面水温分布経年変化	中込 淳・高橋昭夫 (神奈川県水試)
漁業水域問題について	田村 竜彦 (日本鯷漁協連)
ミナミマグロの漁場、漁期について	粕谷 昇 (三洋漁業株式会社)
ミナミマグロの分布、生態に関する既往の知見	新宮 千臣 (遠洋水産研究所)
最近の鯷速洋漁業関係の世界的水産海洋情報	宇田 道隆 (東京水産大学)

## 1 タスマン海周辺のミナミマグロの釣獲率経年変化、年令組成経年変化、および タスマン海、ジャワ南方海域の表面水温分布経年変化

中込 淳・高橋昭夫 (神奈川県水試)

タスマン海周辺のミナミマグロの釣獲率が1957年から1965年にかけて低下を続けていることは磯部<sup>1)</sup>により、また、同海域の操業1回あたり漁獲重量が同様に1961年から1966年にかけて低下を続けていることは磯部<sup>2)</sup>により明らかにされている。

釣獲率経年変化の原因は、漁船数の変動と自然環境の変化の2通りが考えられる。著者等は、釣獲率の経年的低下が自然環境の変化によりもたらされたものであるか否かを明らかにするため、ミナミマグロの釣獲率経年変化、年令組成経年変化、および漁場、産卵場の表面水温分布経年変化の相互関係について調べた。

資料および方法

1957~1965年の年平均釣獲率は磯部<sup>1)</sup>の報告より引用、1966年のソドニ-沖およびスマニア島東側の各海区(図1(C))の平均釣獲率は全国かつお、まぐろ研究協議会発行の鯷漁業誌の月別、5度毎す別釣獲率より算出、1966年のニューランド東側海区(図1(C))は釣獲率の資料